

平成27年度自己評価シート(年度末評価)

学校名 三次市立吉舎中学校

中期経営目標 (目標を設定してから5年目)								
短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	前年度	本年度		評価	達成状況	担当部等
			実績値	目標値	実績値			
1 確かな学力								
基礎的・基本的な知識・技能の定着	・特別支援教育の視点を取り入れた授業展開の工夫(可視化・反復) ・個に応じた指導の工夫(個別対応)	実力テスト50点以上の生徒の割合(5教科平均)	1年 58.7% 2年 36.0% 3年 55.3% (1・2年は3回目 3年は4回目実績)	55%	1年 70.4% 2年 63.3% 3年 38.2%	1年 A 2年 A 3年 C	1年生, 2年生は目標を達成している。3年生は, 目標値を大きく下回った。	教務部
		保護者の満足度(アンケート「学力を高める取組をしている」)	90%	95%	94%	B	目標値をほぼ達成できた。	
自学力の育成	・課題解決型の授業の実施 ・家庭学習(予習復習)やワークシートとリンクした授業展開の工夫 ・ノート指導の徹底	予習・復習を自主的に行っている	—	予習 60% 復習 70%	予習 <u>44.9%</u> 復習 <u>79.1%</u>	予習 C 復習 A	予習は, 目標値を下回った。復習は目標値を上回った。	
		ノート評価Aの生徒割合	—	60%	国語 28.1% 社会 20.2% 数学 63.9% 理科 36.2% 英語 55.7%	国語 C 社会 C 数学 A 理科 C 英語 B	数学以外の4教科は目標を下回った。国語, 社会, 理科についての達成率が低い。	
1時間以上家庭で学習できる生徒の育成	・ルーティンチェック表の徹底 ・自主学習ノートの指導 ・家庭学習とリンクした授業の実施	家庭学習1時間以上の生徒の割合(アンケート)	1年 71.2% 2年 37.6% 3年 65.6%	65%	1年 96.3% 2年 80.6% 3年 67.7%	1年 A 2年 A 3年 A	全学年目標値を上回った。1年生, 2年生は目標値を大きく上回った。	
		家庭学習の定着における保護者の満足度(アンケート)	74%	80%	79%	B	目標値をほぼ達成できた。	

【評価結果の分析】

(知識・技能の定着)

- ・1, 2年とも目標値は上回っている。3年生は前回に続き下回っている。基本的な知識・技能の定着がまだ十分でない状況がある。

(自学力の育成)

- ・復習は, 前回よりも定着してきている。しかし, 予習は半数に達していない。
- ・予習, 復習について具体例を挙げた指導がさらに必要である。
- ・A評価の生徒の割合が下がっている。ノートの具体例を掲示しているが, 見ていない生徒がいる。各教科での指導・徹底が必要である。

(家庭学習)

- ・1, 2年とも家庭学習習慣が定着している。学年が上がるごとに下がっているが, 3年生が目標値を超えた。2年の時より30%も伸びており, 頑張りが見られる。

【次年度に向けての改善方策】

(知識・技能の定着)

- ・補習及び個別課題を与える等の指導を行い基礎・基本の定着を図る取組を行う。
- ・学力の2極化が顕著な状況である。学力調査から正答率の低い内容を重点的に反復練習による習得を図るとともに、課題解決型の授業づくりを進めていく。
- ・どの学年もテスト等で間違えた問題を再度ふりかえさせる習慣づけを図る。また、過去問や授業での小テストなどに取り組む。
- ・ノート指導や振り返りを重視した授業にさらに努めたい。

(自学力の育成)

- ・自主学习ノートの提出率が下がってきている。学習方法の指導と引き続き丁寧なチェックと声かけを行う。
- ・A評価ノートを掲示して他の生徒の意欲付けを行う。また、そのノートを縮小するなどして、その教科のノートに貼らせるなど、視覚的な支援を行う。
- ・ノートの質をあげるには、板書の改善が必要である。また、予習、復習をしないとできない課題や授業の展開を仕組む。

(家庭学習)

- ・どの学年も朝予習の徹底や宿題・自学ノートの提出などに引き続き取り組む。
- ・授業とリンクさせ、宿題や自主学习ノートに引き続き取り組ませ、しっかり評価したい。
- ・保護者との連携を行い、基本的な生活習慣(起きる時間、寝る時間、学習時間、朝食等)の徹底を図っていく。
- ・宿題を増やすのではなく、内容の充実、やらなければ授業で生かせない(発表できない)ような課題の工夫を行う。その中で中間層の生徒の底上げを図る。

2 豊かな心								
自己肯定感の育成	生徒会委員会活動の活性化	生徒の満足感(アンケート「活発だと思う」)	1年 90.3% 2年 75.0% 3年 93.8%	90%	1年 85.2% 2年 83.9% 3年 83.9%	1年B 2年B 3年B	全学年とも、目標値を下回った。	生徒指導部
	部活動、ボランティア活動、体験活動の充実	生徒の満足感(アンケート「周りに認められている」)	1年 54.8% 2年 56.3% 3年 68.8%	60%	1年 33.3% 2年 58.1% 3年 51.6%	1年C 2年B 3年B	全学年とも目標値を下回った。特に1年生は目標値を大きく下回った。	
		いじめ認知・解決(アンケート)	100%	100%	100%	A	解決は100%である。	
	組織的な学級経営の取組	生徒の自己肯定感(アンケート「良いところがある」)	1年 64.5% 2年 59.4% 3年 75.0%	75%	1年 33.3% 2年 74.2% 3年 64.5%	1年C 2年B 3年B	全学年とも目標値を下回った。特に1年生は目標値を大きく下回った。	
礼節と規範意識の定着	吉舎中3か条の徹底	生徒アンケート(授業、生活、環境)	授業 89.8% 生活 83.6% 環境 91.2%	学習 90% 生活 90% 環境 95%	学習 88.3% 生活 75.8% 環境 87.4%	授業B 生活B 環境B	授業については概ね目標値を達成している。生活、環境については、目標を下回った。	

【評価結果の分析】

(自己肯定感の向上)

- ・「生徒会活動は活発だと思う」という質問に対してどの学年も目標値は下回った。生徒の主体的な活動を十分に企画できていない部分があると考えられる。
- ・「自分のよさは、周りの人から認められていると思う」という質問に対して、3年生は目標値を超えている。
- ・「いじめ」について、10月にアンケートを実施した。特にいじめの訴えはなかったが、3学期に入り保護者の方からの情報提供により金品を強要する等のいじめが発覚した。9月頃から継続し

て行われていたが保護者から言われるまで学校としては気づかなかった。いじめを早期発見し早期解決するためにはまだまだ課題があることが分かった。

- ・「自分には良いところがある」という質問に対して、全学年とも目標値を下回っている。

(礼節と規範意識)

- ・どの領域も学校全体としては、目標値を下回っている。学習の3か条の「着ベル」については全学年目標値を上回った。環境の3か条の「時間を守る」「仲間を大切にする」は2年生、3年生は目標値を上回った。
- ・小中一貫教育の重点としている「あいさつ」「返事」「整理整頓（はきものそろえ等）」は、全学年とも目標値を下回っている。

【今後の改善方策】

(委員会活動活性化) (部活動, ボランティア活動, 体験活動の充実)

- ・生徒会執行部や委員長への指導等まだまだ不十分であった。新生徒会執行部を中心に生徒が主体となるよう取組を進めていく。現在新執行部が計画中の校内ボランティア活動や部活動ごとの挨拶運動等, 企画したことが達成できるよう指導と支援を行う。
- ・ボランティア活動を行ったときは, 活動後の評価を可視化するなどして, 参加生徒の更なる意欲につなげていく。今年度行った10月7日の町内一斉「クリーン活動」や11月19日の小中合同の「きさ音楽祭」を開催し, 小学生のモデルとなることを意識させ自信を持たせることができた。来年度からも継続して行い, 更なる質の向上を目指したい。
- ・3学期, 新執行部は, ミニボランティア活動(例: 雪かき)をスタートさせた。ボードを設置し, 臨機応変に校内で動くボランティア募集をしている。また, いじめ根絶の取組もスタートさせた。
- ・体育祭や文化祭などの大きな行事では執行部と委員会が中心となって取り組んでいけるよう取組開始時期を早める。

(組織的な学級経営の取組)

- ・授業においても自己存在感が感じられるグループ活動を仕組んでいく。
- ・「いじめ」の早期発見・解決に向け定期的なアンケートの実施と教育相談を合わせて行っていく。常に迅速な対応が取れる体制を整えておく。生徒同士の人間関係の変化等にも配慮し, 情報を共有していく。
- ・年間3回の県立教育センターサテライト講座「学びを支える, つながる学級づくり」講座を実施しており, 全職員が統一した学級経営を行う基盤整備を行うことができた。

(礼節と規範意識)

- ・生徒の意識化を図るために評価を可視化(掲示・学校朝会での表彰等)し, 意識付けを図る。
- ・挨拶のレベルを生徒会が提示し実践するなど, 学校文化として根付くよう仕掛ける。